各学科の教員配置数に関する調査

全国高等学校農場協会振興局

１．はじめに

農業科教員は、普通科や他の専門教科の教員と同様に学校業務を行うほか、広大な農場管理を行っている。また、授業や生徒の精神的ケアなど学校現場の業務が繁忙化する中、その負担は大きく、教職員の健康にも影響しかねない状況にある。また男性職員を含む育休時間の弾力化、育休期間の延長や、病休・休職職員によって生じる代替の教員が各学校に配置されないまま新学期がスタートしてしまうという現実も存在する。このような事態を改善し、より良い環境で充実した農業教育が実践されるために現状を把握し、農業教職員の適正配置が行われることを目的としアンケートを実施する。

２．対象

農業科目を設置している専門高等学校等(農場協会に加盟している高等学校)

回答学校数：47 都道府県、　348 校　　回答率 92.3%

３．アンケート結果

１）学科種別から見た女性正規教諭・正規実習助手数の状況

学科種別 (A～F)	回答数	正規教諭の数 (人)	正規女性教諭の数 (人)	正規女性教諭の割合 (%)	正規実習助手の数 (人)	正規女性実習助手の数 (人)	正規女性実習助手の割合 (%)
A（生物生産系）	269	1521	288	18.9	978	149	15.2
B（環境系）	131	566	70	12.4	231	28	11.9
C（食品系）	131	502	142	28.3	209	65	31.2
D（生活系）	54	150	66	44.0	51	16	31.4
E（その他）	47	194	41	21.1	103	11	10.7
F（総合学科）	69	312	61	19.6	154	18	11.7
合計	701	3245	668	20.6	1726	287	16.6

注 1)学科種別のうち 1 クラスに複数内容の学科(AB、AC など)の回答は E（その他)とした。

図１　正規教諭の男女割合

図２　正規実習助手の男女割合

正規教諭では 12%～44%、実習助手では、11%～31%である。

どちらも食品系・生活系で女性職員の割合が高い。しかし、環境系は女性職員の割合が低い。

２）学科種別から見た女性非正規教諭・非正規実習助手数の状況

学科種別（A～F）	回答数	非正規教諭の数（人）	非正規女性教諭の数（人）	非正規女性教諭の割合（%）	非正規実習助手の数（人）	非正規女性実習助手の数（人）	非正規女性実習助手の割合（%）
A（生物生産系）	269	196	58	29.3	198	60	30.1
B（環境系）	131	75	14	18.7	44	7	15.9
C（食品系）	131	80	30	37.5	41	19	46.3
D（生活系）	54	16	5	31.3	16	9	56.3
E（その他）	47	33	4	12.1	23	2	8.7
F（総合学科）	69	45	4	8.9	37	8	21.6
合計	701	445	115	25.7	359	105	29.1

注 1)学科種別のうち 1 クラスに複数内容の学科(AB、AC など)の回答は E（その他)とした。

図３　非正規教諭の男女割合

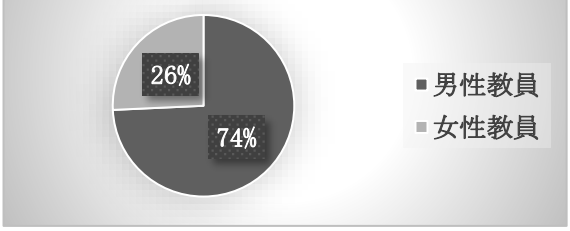
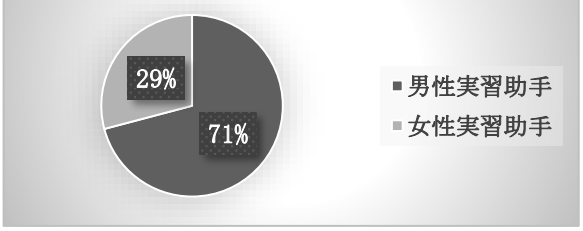


図４　非正規実習助手の男女割合



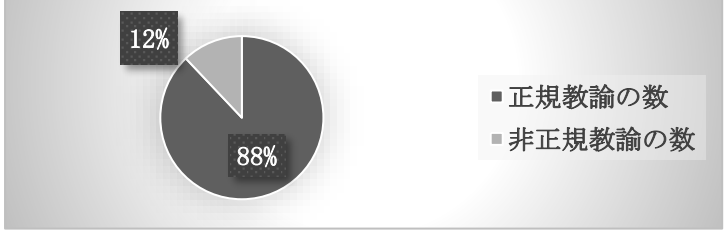
非正規教諭では 18%～38%、実習助手では、16%～56%である。やはりどちらも食品系・生活系で女性職員の割合が高い。しかし、環境系は女性職員の割合が低い。

３）学科種別から見た非正規教諭の割合

学科種別（A～F）	回答数	教諭の数（人）	正規教諭の数（人）	非正規教諭の数（人）	非正規教諭の割合（%）
A（生物生産系）	269	1717	1521	196	11.4
B（環境系）	131	641	566	75	11.7
C（食品系）	131	582	502	80	13.7
D（生活系）	54	166	150	16	9.6
E（その他）	47	227	194	33	14.5
F（総合学科）	69	357	312	45	12.6
合計	701	3690	3245	445	12.1

注 1)学科種別のうち 1 クラスに複数内容の学科(AB、AC など)の回答は E（その他)とした。

図５　正規教諭・非正規教諭の割合



教諭では 10%～15%が非常勤職員である。非常勤職員の比率が減り、正規の職員に置き換わっていけば、公務分掌や部活動などの負担も軽減されていくと考えられる。

４）学科種別の非正規実習助手の割合

学科種別（A～F）	回答数	実習助手の数（人）	正規実習助手の数（人）	非正規実習助手の数（人）	非正規実習助手の割合（%）
A（生物生産系）	269	1176	978	198	16.8
B（環境系）	131	275	231	44	16.0
C（食品系）	131	249.5	209	41	16.4
D（生活系）	54	67	51	16	23.9
E（その他）	47	126	103	23	18.3
F（総合学科）	69	191	154	37	19.4
合計	701	2085	1726	359	17.2

注 1)学科種別のうち 1 クラスに複数内容の学科(AB、AC など)の回答は E（その他)とした。

図６　正規実習助手・非正規実習助手の割合

実習助手についても、17%～24%が非常勤職員である。
非常勤職員の比率が減り、正規の職員に置き換わっていけば、農場管理や授業準備などの負担も軽減されていくと考えられる。

５）実際に適正と感じる配置数との差

	実際の配置数（人）	適正と思われる職員数（人）	差（人）
教　　諭	3245	3822	577
実習助手	1726	2372	646

実際に日常業務を進める中では、４）５）の非常勤職員の数を減らしただけでは十分な状態ではないと感じている農業職員が多くいることが感じ取れる。

４．自由回答による各校の問題点

・女性職員が育休を活用しようとしても、育休に対する人員の配置が**非常勤講師の場合は校務分掌や部活動などの勤務ができない**。
・生徒（クラス）数の減により職員数の減は理解できるが、**農場の規模は減となっていない**。是非、適正人員数の確保をお願いしたい。
・**まずは現状維持ができるように**、定数の変更がないようにしていただきたい。
・正規教員（教諭・助手）の配置と、**教員定数を引き上げてほしい**。
・**校種・農場規模・開設講座数・農業科目選択生徒総数などを参考に配置してほしい。余裕をもって生徒の学習指導**ができる人数の配置を希望します。
・生き物を扱う圃場の管理には休みがなく、また良い作物を育てるためには、手間がかかる。その**実情を理解したうえで農業教員の配置をお願いしたい**。
・**生徒数減少による教員数減少が心配**である。
・**学校の諸事情に応じた適正な教員数の確保**。講師登録における給与等の募集内容の改善。
・人数もあるが、**科目の専門性や経験年数なども考慮して適正な人員配置**が必要である。

・初任者研修対応の講師時間数を確保してもらっても、**非常勤講師数が少なくて困る**。
・非常勤職員の持ち時間数が多く、授業外での圃場の管理、実習の準備がおろそかになるため、常勤職員の人数を増やして欲しい。また、**本年度は職員数が定数に満たない**ため、職員の確保ももっと早く動いて欲しい。
・**教職を目指す人が減少傾向にあり**、特に農業など専門教科の教員配置が困難になっている。部分休業等の**いろんな働き方**が可能になった反面、**常勤の職員への業務負担が増えてきている**。
・**教員不足で授業準備に時間がとれない**。もっと充実した授業にするため**配置数を増加**して欲しい。
・**教員のなり手不足、人が欲しくてもいない現状**。
・学校**現場は多忙**であり、**教諭も実習助手も臨時職員では校務をこなすことができない**。農場管理員という**嘱託職員を配置してくれているが、生徒の実習指導を行うことができず、嘱託職員が増えれば教諭が忙しくなる現状**である。
・現在、本校の農業科職員は教諭３人以外、再任用教育職員２人、再任用実習助手１名、教育業務支援員１名ということで改善してほしい。
・本校では、**実習助手の正規職員の確保と定数増が必要**である。また、**待遇改善**等を議論していただき、教諭・実習助手に関わらず**学校で働きたいと思うことができる環境整備**を願います。
・**実習助手の正規職員の確保**と**専門性が高い中堅教員（教諭）が少なく**、再任用職員を含めると**平均年齢が高い**。学校の面積が広く（４２ｈａ）現業の**技術職員も少ない**。

５．まとめ

今、置かれている農業関係高校の教員数の諸問題は今回のアンケート結果からみると、以下の４点である。

①アンケート結果から女性教職員がまだまだ少ないこと。
②自由回答から、生徒数の減少や教員の定数減など農場管理に対する負担が考慮されておらず、農業科の特殊性を理解してもらえていないこと。
③本来置かれるべき教員の定数に十分な充足がなされていこと。このことは教職員の異動や休職によって生じる補充ができていないなど制度上の欠陥によるものである。
④教員志望の若者離れ。正規教諭が持ちきれない授業時間を補い合うための人材が見つからないこと。これについては、職業として教員に魅力がないと思われていることが大きな原因であると思われる。働き方改革や待遇改善等をもっと進めていかないと若い人材が教員を目指してくれないのではないだろうか。

以上のアンケート結果をもとにさらなる議論を成熟させ、教員がいきいきとしたより良い農業関係高校の実現を目的とした教員数確保の要望を行いたいと考える。

学校業務の忙しい中、膨大なアンケートにお答えいただいた先生方、ありがとうございました。現場の声を多くの方々に共有していき、少しでも改善されていけるように今後もご協力よろしくお願いします。